

第3学年 国語科学習指導案

日時：平成 年 月 日（ ）第 校時
場所：3年教室
授業者：
児童数：男 名、女 名

1 単元名・教材名

単元名：物語の感想をまとめよう
教材名：ちいちゃんのかげおくり

2 指導の立場

(1) 子どもの実態

1学期の「きつつきの商売」「海をかつとばせ」の学習を通して、会話や行動を表す言葉に着目して、登場人物の様子や気持ちを考えることができるようになってきた。考えを発表しようという意識も高い。しかし、視点に沿った言葉を見付けるのに時間がかかったり、自分勝手な読み取りになったりする姿も見られる。

祖父母さえ戦争を知らない世代だが、ちいちゃんをを通して、戦争の怖さや、やってはいけないという考えをもつことができると考える。戦争に関わる資料の展示や並行読書を仕組むことで、ちいちゃんの置かれた状況を想像しやすくしていきたい。

(2) 本時の指導について

【自分の考えをもたせるための指導方法の工夫】

着目する言葉を見付ける手掛かりとして、読み取りの視点をプリントや黒板に示す。「繰り返し」や「まわりの様子」(情景描写)などの文章表現も視点として与えることで、「同じ言葉が繰り返されているから、強くそう思っている。」と考える子どもを育てたい。また、戦争がちいちゃんから奪ったものという視点で、「○場面では…、この場面では、…」と、場面同士を繋いで考えられるようにしていきたい。

【伝え合うための指導方法・指導形態の工夫】

「～さんと同じで～」など、仲間の考えと比べて話す時の話型や、ハンドサインを継続して指導することによって、自分の考えと比べて聞いたり話したりすることができるようにしてきた。感想文のペア交流を取り入れ、仲間の考えのよさや、自分との相違点について話す話型を雛形として、どの子どもも自信をもって話すことができるようにしたい。

【自分の考えを深めていくための指導方法の工夫】

ちいちゃんの悲しく心細い気持ちを深く読み取るために、置かれた悲惨な状況を表す情景描写に着目する必要がある。情景と気持ちを繋げて読み取ることができる子どもはまだ少ないので、「ちいちゃんの悲しく心細い気持ちが分かる言葉は。」と問い、「くもった朝」などの表現に帰着していく。そして、何日も一人きりで過ごす悲惨な状況から、ちいちゃんの悲しさや心細さの中身を考えられるようにする。

3 本時の目標

「深くうなずきました」「きっと」「こわれかかったぼうくうごう」「くもった朝」「また、暗い夜」という言葉に着目することを通して、ひとりぼっちのちいちゃんが置かれた悲惨な状況に気づき、母や兄の帰りを待つ悲しく心細い気持ちを読み取ることができる。

4 本時の展開

過程 過程の目標		主な学習活動	指導・援助 [深めの発問] [評価規準]
つかむ	○前時を振り返り、本時の課題をつかむことができる。	1 前時までの学習を振り返る。 ・お父さんが出征し、お母さんとお兄ちゃんとも空襲ではぐれ、ひとりぼっちになってしまい、とても寂しいちいちゃんの気持ちを思い出す。 2 本時の学習課題をつかむ。 家が焼け落ちてなくなっていたときのちいちゃんの気持ちを読み取ろう。	・前時までの掲示により、前時までの内容を振り返る。
ふかめる	○本時の課題を意識し、ちいちゃんの気持ちを読み取ることができる。 ○読み取ったことを仲間と交流しながら自分の読み取りを深めることができる。 ○戦争がちいちゃんから奪ったものという視点で、場面と場面を繋いで考えることができる。	3 一人読みをし、ちいちゃんの悲しい気持ちが分かる言葉を見付ける。 着目する言葉＝会話文・人物の行動や様子を表す文・気持ちを表す文・まわりの様子を表す文 4 読み取ったことを交流する。 ・「すっかり」という言葉から、空襲でわたしが住んでいた町の様子が一晩で変わってしまったので、とても悲しい。 ・「どこがうちなのかー」でダッシュがあるから、たくさんの家が焼けてしまい、どうしたらいいか、わたしの家は大丈夫だろうかという気持ちが強い。 ・「やっと」という言葉から、お母さんやお兄ちゃんとはぐれてしまって悲しいけれど、一生懸命我慢していることが分かる。 ・「深くうなずきました。」という言葉が繰り返されているから、お母さんとお兄ちゃんが帰ってくると強く信じている気持ちが分かる。 ・「きっと」という言葉から、お母さんとお兄ちゃんが帰ってくると強く信じていたのだと思う。 ・「暗い夜」という言葉から、ひとりぼっちでとても心細かったと思う。 5 3場面では戦争がちいちゃんから奪ったものについて、1、2場面と比べて繋げたりして話し合う。 ・戦争は、1場面ではちいちゃんからお父さんを奪い、2場面ではお母さんとお兄ちゃんを奪い、3場面ではちいちゃんの家まで奪った。また、1場面の前半に家族でかげおくりをした楽しい空も奪われ、かげおくりなどできない、ちいちゃんにとって怖い空になってしまった。	・机間指導で着目する言葉に線が引けているか見届ける。 ・本時使うとよい「読み取りの視点」を提示する。(繰り返し 情景描写) 「ちいちゃんの悲しく心細い気持ちが表れているのはどの言葉か。」と問い、「くもった朝」「また、暗い夜」「こわれかかったぼうくうごう」などの言葉に着目させる。お母さんたちが帰って来ると強く願いながら、何日も一人で暗い夜を迎えなくてはならないちいちゃんの悲惨な状況に気付かせ、悲しさや心細さの中身を考えられるようにする。 ・戦争はちいちゃんから家族や家などを奪ってしまったが、家族と一緒にいたいというちいちゃんの願いは奪われていないことを押さえる。
まとめる	○母や兄の帰りを待つちいちゃんの気持ちや戦争について感想を書くことができる。	6 本時のまとめをする。 一番心を打たれたところを中心に感想を書く。 ちいちゃんは本当に悲しかったと思います。なぜかという、お母さんやお兄ちゃんとはぐれて、家もなくなって、何日も暗い夜をこわれかかったぼうくうごうの中でひとりぼっちで過ごさなければならなかったからです。戦争は、ちいちゃんから家までもうばってしまうなんて、本当にこわいと思います。 暗い夜をすごした場面では、「ちいちゃん、がんばれ。」と心の中でさけんでいました。理由は、わたしも一人で暗い部屋でねた時、とてもこわかったので、この時のちいちゃんは本当に心細かっただろうなあと思ったからです。戦争は、家族をはなればなれにしてしまうので、絶対にはいけないと思います。 7 感想文を読み合い、よいところや相違点について話し合う。(ペア交流) ・わたしも○○さんと同じで、ちいちゃんはとても悲しい気持ちだったと思います。私も、ちいちゃんなら、お母さんやお兄ちゃんがきっと帰って来ると信じると思います。 ・□□さんは、心細いちいちゃんを励ましているところがいいと思います。もし、ぼくがちいちゃんなら、励ましてもらったら、元気が出ると思うからです。ちいちゃんのような小さい子どもまでひとりぼっちになってしまう戦争はやってはいけないと思います。 8 自己評価をする。	・短時間で感想が書けるように、感想文を書く工夫や例文を提示しておく。 感想文の工夫 ①一番心を打たれた言葉を使って書く。 ②理由を書く。(P20の文型で) ③自分の経験を入れる。 「深くうなずきました」「きっと」「くもった」「また、暗い夜が」「こわれかかったぼうくうごう」などの言葉を使って、母や兄の帰りを待つちいちゃんの悲しく心細い気持ちを書いている。(読)

5 国語科単元指導計画

(1) 単元の目標

- ・場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の行動、情景、会話などの表現に着目して読むことができる。
＜C－(1)－ウ＞
- ・細かい点に注意しながら読み、場面をまとめたり、文を引用したりして感想を書くことができる。
＜C－(1)－エ＞
- ・感想の内容や書き方を比較し、考えの明確さなどについて意見を伝え合うことができる。
＜B－(1)－ウ・カ＞

(2) 単元を貫く課題

- ・ちいちゃんの様子を読み取り、戦争について考えよう。

(3) 単元指導計画：全12時間

時数	目標	主な学習活動	評価規準
一次1	題名から想像したことや戦争について交流することを通して、学習の見通しをもつことができる。	・題名から想像することや、戦争について知っていることを話し合う。 ・全文を読み、難語句の意味を調べる。	ちいちゃんの人物像やかげおくり、戦争などについて想像しようとしている。 (関)
2	初発の感想を話し合い、学習計画を立てることができる。	・全文を読み、初発の感想を書く。 ・感想を話し合い、学習課題や学習計画を立てる。	内容を捉え、心を打たれたところについて感想をもっている。 (読)
二次3	「すごい」「記念写真」「体の弱いお父さんまで」「いかなければならないなんて」「かげおくりなど」「とてもこわい所」という言葉に着目することを通して、家族4人や兄弟でかげおくりをした楽しい空から怖い空に変わったことに気づき、ちいちゃんの恐怖心や、戦争に対する父母の悲しく悔しい気持ちを読み取ることができる。	・「すごい」「記念写真」「体の弱いお父さんまで」「行かなければならないなんて」「かげおくりなど」「とてもこわい所」などの言葉に着目して、ちいちゃんや父母の気持ちを読み取る。 ・心を打たれたところの文を引用や要約しちいちゃんや父母の気持ち、戦争について感想を書く。 ・ペアで感想を読み合い、よいところや相違点について話し合う。	「すごい」「記念写真」「体の弱いお父さんまで」「行かなければならないなんて」「かげおくりなど」「とてもこわい所」などの言葉を引用や要約し、ちいちゃんの恐怖心や、戦争に対する父母の悲しく悔しい気持ちを書いている。 (読)
4	「お母ちゃん」「さげびました」「ひとりぼっち」という言葉に着目することを通して、空襲の中、必死で逃げるちいちゃんたちの様子に気づき、母たちとはぐれて不安なちいちゃんの気持ちを読み取ることができる。	・「お母ちゃん」「さげびました」「ひとりぼっち」などの言葉に着目して、ちいちゃんの気持ちを読み取る。 ・心を打たれたところの文を引用や要約しちいちゃんの気持ちや戦争について感想を書く。 ・ペアで感想を読み合い、よいところや相違点について話し合う。	「お母ちゃん」「さげびました」「ひとりぼっち」などの言葉を引用や要約し、母たちとはぐれて不安なちいちゃんの気持ちを書いている。 (読)

5 本 時	「深くうなずきました」「きっと」「こわれかかったぼうくうごう」「くもった朝」「また、暗い夜」という言葉に着目することを通して、ひとりぼっちのちいちゃんが置かれた悲惨な状況に気づき、母や兄の帰りを待つ悲しく心細い気持ちを読み取ることができる。	・「深くうなずきました」「きっと」「こわれかかったぼうくうごう」「くもった朝」「また、暗い夜」などの言葉に着目して、ちいちゃんの気持ちを読み取る。 ・心を打たれたところの文を引用や要約し、ちいちゃんの気持ちや戦争について感想を書く。 ・ペアで感想を読み合い、よいところや相違点について話し合う。	「深くうなずきました」「きっと」「こわれかかったぼうくうごう」「くもった朝」「また、暗い夜」などの言葉を引用や要約し、母や兄の帰りを待つちいちゃんの悲しく心細い気持ちを書いている。 (読)
6	「ふらふらする」「ふみしめて」「たった一つのかげぼうし」「きらきらわらいだしました。」という言葉に着目することを通して、ちいちゃんの命が消えていったことに気づき、ひとりぼっちでかげおくりをするちいちゃんの気持ちを読み取ることができる。	・「ふらふらする」「ふみしめて」「たった一つのかげぼうし」「きらきらわらいだしました。」などの言葉に着目して、ちいちゃんの気持ちを読み取る。 ・心を打たれたところの文を引用や要約しちいちゃんの気持ちや戦争について感想を書く。 ・ペアで感想を読み合い、よいところや相違点について話し合う。	「ふらふらする」「ふみしめて」「たった一つのかげぼうし」「きらきらわらいだしました。」などの言葉を引用や要約し、ひとりぼっちでかげおくりをするちいちゃんの気持ちを書いている。 (読)
7	第5場面の役割について考えることができる。	・ちいちゃんはいないのに、どうしてこの場面があるのか考える。 ・心を打たれたところの文を引用や要約し戦争について感想を書く。 ・ペアで感想を読み合い、よいところや相違点について話し合う。	場面と場面の関係について理解している。 (読)
三次8	「はじめ」と「おわり」を工夫して、戦争について感想文を書くことができる。	・教科書の例を読み、「はじめ」と「おわり」の書き方の工夫について知る。 ・「はじめ」と「おわり」を工夫して、感想文を書く。 ・ペアで読み合い、アドバイスをし合う。	「はじめ」と「おわり」を工夫して、感想文を書いている。 (書)
9 10	一番心を打たれたところを選び、本文を引用や要約して、戦争について「中」の感想文を書くことができる。	・場面ごとの感想を読み直して、一番心を打たれたところを選ぶ。 ・本文を引用や要約して「中」を書く。 ・ペアで読み合い、アドバイスをし合う。	一番心を打たれたところを選び、本文を引用や要約して「中」を書いている。 (書)
11	戦争に関する作品を読み、「はじめ」「中」「おわり」の組み立てで感想文を書くことができる。	・戦争に関する作品を読む。 ・「はじめ」「中」「おわり」の組み立てで感想文を書く。 ・ペアで読み合い、アドバイスをし合う。	「はじめ」「中」「おわり」の組み立てで感想文を書いている。 (書)
12	戦争についての感想文を発表し合うことを通して、友達の考えのよさや相違点に気づき、戦争についての考えを深めることができる。	・グループで感想文を読み合う。 ・戦争について、友達の考えと自分の考えを比べて話し合う。 ・友達の考えのよいところをメッセージカードに書く。	友達の考えのよさや相違点を踏まえて、戦争についての考えを話している。 (書)